

平成 21 年度第 5 回新宿区外部評価委員会会議要旨

< 出席者 >

外部評価委員（12 名）

卯月会長、名和田副会長（第 3 部会長）、岡本委員（第 2 部会長）、大塚委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員
事務局（3 名）

木内行政管理課長、大竹主査、担当 1 名

< 開催日 >

平成 21 年 10 月 27 日（火）

< 場所 >

区役所第 2 分庁舎分館 1 階 会議室

< 開会 >

1 外部評価結果の取りまとめ

【会長】

それでは、定刻になりましたので、開会します。

今日は別途ご案内のとおり、今年度の外部評価委員会の最終日ということで、取りまとめが目標になっております。12時までの予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、それでは早速、事務局より今日の報告書案その他の資料についてご説明をいただけますでしょうか。

【事務局】

前回調整が必要だった計画事業などにつきまして、部会長と調整させていただいた内容に基づきまして、外部評価報告書案を作成しました。資料番号1となっているものです。

外部評価シートをそのまま報告書を作成するという考えもございますが、この案では、外部評価シートの評価対照表を入れ、意見欄は空白の部分については掲載しない形でまとめさせていただきます。

この中の個別目標につきましては、各部会長からいただいたものを載せてありますので、まだ体裁等は整っておりません。これについては、後で体裁を整えたいと思っております。

この他に、まだ目次その他が付きませんが、この形で進めさせていただければと思っております。

【会長】

ありがとうございます。順にいきたいと思いますが、計画事業の外部評価の話を最初にしたいと思います。その次に、個別目標評価を部会長中心に作成しましたので、計画事業が終わっ

てからこの個別目標の話をして、最終的に報告書の構成・体裁について話をしたいと思います。
よろしいでしょうか。

それでは、外部評価について、各部会で前回積み残しになっていた部分がどういうふうになったか、簡単に説明してください。

【第2部会長】

第2部会では、例えば、内部評価で要改善になっていて、外部評価でそれを「適」としたような場合、その事業の評価を「適」としたというのと混乱しないように、「改善としていることを私たちは適切と思いました」というような言葉で少し使い分けました。それが大きな点だと思います。

それで、全く何も書かれていない項目、評価しようがないと言ったら変なんですけど、例えば事業番号22「新しい中央図書館のあり方の検討」で、検討会を開きました、というのに対し、取り組みの姿勢は評価できます、というような言い方しかできなかったというのがございますが、全く評価が書かれていないという部分はなくしたということです。

【会長】

はい。では第3部会はどうですか。

【第3部会長】

1つは、事業番号4の地区協議会と町会・自治会について、なかなかこれは何と書いたらいいのか難しい。現時点で委員の皆さんからいただいた意見をこのチェックシートにどういう形で入れ込めばいいのかということについてさまざま迷いましたが、一応個別目標評価でこのことを書いています。後で検討されると思いますけれども、地区協議会、町会等で同じ項目に扱われると、非常に評価も混乱するというか、そういうところがあるのではないかとこのところでは。

それからもう一つ、事業番号84の商店街活性化支援ですけれども、結構厳しいご意見が出ているんですけれども、商店街に対して税金を使って支援するということは良いか悪いかの判断はもはや政治的な問題で、少なくとも日本の政府、行政はそれをよしとしてきているので、税金を商店街振興に使うこと自体がよくないというようなトーンでは、外部評価としてはやり切れないんじゃないかということで整理を行った結果、このような簡略な表記になっています。

それから、もう一つ気になっているのは、事業番号86の外国人参加の促進と文化行政、これは、個別目標のほうにも少し問題があって、後でご議論いただきたいんですけども、この計画事業自体の評価について、こんなものでいいだろうかということを考えていただきたいということです。

気になっているのは以上で、あと個別評価のところでもご議論いただければと思います。

【会長】

第1部会については説明する大きいものもなく、表現についての指摘があったものを若干修正しながら加えたというのが3つで、私としてはそんなにそれほど大きな変化ではないと思っています。ご指摘していただいた委員の方もいらっしゃると思いますので、今日配って、これでいい

ですかというのはちょっときついかもしれないけども、何かご意見はありますか。

【委員】

細街路の改革方針のところは、さらなる計画の推進じゃなく、計画自体がおかしいんです。

【会長】

この場合の計画というのは大きな意味の計画で、毎年の数値のことを言っているとも必ずしも限らないですね。

【委員】

ここのところの改善方法ということは「計画を見直し」と入れてほしいですね。

さらなるという計画ではできません。数値の問題じゃなくて、計画自体がおかしいんです。

【会長】

計画というのは、計画の中身ですよ。

【委員】

そうです。計画もこの間聞いたところ、建築基準法のいろんなくくりがあって、そういうことで、これは6mしかできませんということで、区ではどうにもなりませんというお答えでしたけれども、他の区では、区が買い取ったりもしているわけですよ。区が道路の所有者になることもあるわけですから、この計画にそういう施策を立ててくださいということです。

【会長】

では、この表現をもう少しわかりやすく書くことにしましょう。

他に、第2、第3部会も含めてで結構ですけどもご意見ありますか。

【委員】

商店街のほうは、税金の使い方だけでなく、区民の安全、防災上の安全を守るためにも、商店がないと真っ暗になってしまうし、町内会がだめになる。それから災害のときに守ってくれる人がいなくなってんでしまうんです。そういう意味を込めて税金は使われているわけです。

【第3部会長】

商店の活性化じゃなくて、商店を含む町の活性化なんだからということですね。

【委員】

そうです。町のためにお金を出しているんです。意外と、そういうことをしないと全部つぶれていますよね。

【委員】

要は結局個人商店の跡継ぎがないんですよ。それでみんな年をとってやっていけないからというんで、店を閉めてしまう人が多いんです。

そういうこともあるので、そうならないようにするにはどうしたらいいかというとなかなか難しいんですけどね。それぞれ個人の、お店の考え方、子どもたちの考え方もあるものですから。

【第3部会長】

もちろん行政はそういう構造ご存じだと思うんですけども、本当はそれを踏まえてもう少し議論する時間が欲しかったという気がしますね。

【委員】

神楽坂なんかはきちっとやって、魅力があれば跡継ぎがいなくても外から参入してきていますからね、空き店舗に若い人がベンチャーで入ってくる。

【第3部会長】

いいところはいい循環だけど、悪いところは悪い循環になってしまう。

【委員】

やっぱりそれは指示する人がいないと。牛込柳町なんかも、アドバイザーが入って空き店舗に今ベンチャーが入っていますから。それは行政のお金を使ってやったからそうなっているの、大分そういう点でいくつかの地域は活性化してます。私たちは見に行きましたけれども。

【第3部会長】

その点は昨年評価したんで、今年はそこはしなかったんです。

【委員】

本当に地域は高齢化が大変です。

【委員】

今、商店街も含めて、やはり地域というものをみんなで守っていくという方向に物を考えていこうというのが社会的なコンセンサスになりつつあって、農業、農村、食料の問題もそういう方向で議論しようというふうにはなっているんですけど、これは非常に微妙な問題で、外部評価のところまでどこまで書き込めるかというのはなかなか難しいと思います。

【会長】

ここでは適切な目標設定ということに対して、「不適」としてありますので、ここで掲げられている目標だけでは図れないのではないかという指摘になっていると思います。

【委員】

補助行政で毎年決まった形で支援をすることが、気がついてみると、支援を外したらつぶれてしまう。本当は自己努力で強くしていくべきものではないか。行政がどこまでそれにかかわるべきなのか、それがずっと続いている今の状態を本当にいいのかという問題提起はしたいと思います。

【会長】

実際には補助金は3年ごとに見直しは行われているんです。

ただ、それが本質的な見直しかという、それは大いに議論の対象になるので、結局手を変え品を変え、同じずっと続いているではないかという、そういうご批判は当然あり得ると思うんですよね。補助金の見直しが特にそうなんだけど、できる限り公募型にしましょう、企画が毎年毎年出てきて、効果が見込まれるだろうと踏んだものについてちゃんと助成金をつけ、それにもかなり企画によって差をつけましょう、というのがありますよね。

【第3部会長】

その点についても、商店の場合は従来、昔は商店街のみが申請者であるというのがほとんどだったそうで、最近変わってきていますね。

【会長】

協働事業には商店街は入っていないんですね、今回。

【委員】

この事業と、関連する補助事業が複数ありますよね。それを見ても、何をやっているのかということがわからないんです。毎年1億数千万円使っていて、新宿の商店街でそれがどういう優先順位で、なぜ選ばれて使っているか、どういう人がやるのか、選ぶ人がそれをどう評価しているのか、その仕組みもここに書いていない。だから、やっぱりマンネリ化しているのではないかという印象を持ってしまいます。

税金を使うなどが、そういうことをやっちゃいけないとかと言っているわけではないけど。

【会長】

1カ所を書くより、いろいろなところに書いたほうがそういうのは有効だと思うので、改革方針への意見とか、あるいは協働の視点による評価、というところにちょこちょこ書く。

例えば、商店街が地元の町会とかPTAとか他と連携してやるんだとなると、他の方々と連携することによって活性化するわけだから、そういう仕組みの視点をもっと入れるべきだとか。

【委員】

神楽坂とか牛込とか、うまくいっているところは、そういうところがうまくいっている。

【委員】

そうですね。

【会長】

商店街活性化支援については、皆さんご意見があるようなので、どうでしょうか。今日の意見を踏まえて追加するというところでよろしいですね。

【委員】

確かにマンネリ化になっているものもあります。でも一つのを立ち上げて、10年たたないと本当のものはできないんです。10年たつともうやるほうも飽きちゃうんですが、本当に伝統を守るとしたら、マンネリ化じゃなくて、伝統は継続してやってもらいたい。

【委員】

百人鉄砲隊とか天神の祭りとか、そういうものは商店街がなければできません。

マンネリみたいですけど、毎年やることによって、商店街と話しながらかつなげていくということもあるわけですね。

【委員】

去年の報告書でほぼ同じことを指摘しています。今年、そういうことがあまり考慮されないで内部評価が書かれているから、去年の指摘に対して、今年必ずしも十分ではないのではないかというようなことで、この件については決着をつけたらいいんじゃないですか。

【会長】

では、方向はそのようにしましょう。

【会長】

さて、他の事業についてはよろしいですか。計画事業について、また後でお気づきの点は言っていたら結構ですので、次にいきたいと思います。

次は個別目標の評価についてです。先ほども申しましたように、個別目標の評価というのは今年新しく初めて出てきたものです。

内部評価実施結果報告書の15ページに個別目標評価一覧表というのがあります。言うまでもなく6つの基本目標というのが総合計画にあり、それにそれぞれ枝がついていまして、個別目標がここに出ています。我々が今まで評価したのは、この個別目標にまたぶら下がっている枝です。今回の外部評価は、この計画事業という小項目についてきちっと全部評価しようということで評価を行ってまいりました。

それを構成する個別目標についても少しまとめておいたほうがいいのかということ、これは時間の問題もあったんですが、部会長が個別目標の評価を今回作成したというものです。

いざやってみると、結構難しい、あるいはかなり問題がある。3人の部会長の中でも、表現もあまり調整しておりませんので、表現が少し違っていたというところもあります。

それで、事務局でその体裁を整えていただいたものが、資料1の第3章にあります。第3章を見ていただきますと、個別目標の評価結果というのがございまして、基本目標と個別目標と計画事業、大項目、中項目、小項目と構成が書いてあって、それにそれぞれの評価が書いてあるということです。これに沿った形で部会長からこの評価についてコメントいただけますか。

【第3部会長】

まず個別目標の1と2、これは第3部会です。個別目標を評価するに当たって一番当惑したのが、計画事業評価を踏まえて評価すればいいと思っていたんですけども、実際に個別目標をもう一度見てみると、個別目標のところでも独自に出てきている文面がありまして、それについては部会長案という形でお示しするほかないということなわけです。

ただ、部会長が独断で書くわけにはいかないもので、計画事業の評価からすんなりとは出てこないような独自の個別目標評価の部分には下線が引いてあります。これについて、今日ご意見いただきたいと思います。

そのことを前提にさせていただきますと、個別目標1「参画と協働により自治を切り拓くまち」については、最後に社会貢献活動団体のネットワークづくりの拠点設置ということをやっている。

これについては、私の記憶では第3部会であまり議論していないのですが、非常に重要なことなので、何か言ったほうがいいんじゃないかと判断をいたしまして、下線が引いてある3行をつけ加えております。よその自治体で言うと市民活動サポートセンターのような、そういう施設ではないかと想像しますけれども、非常に重要だと思っんで、着実な進展を期待するというふうに書いています。それから、自治創造研究所でNPOのアンケート調査をやったこともちょっと書いてあります。

個別目標の2、コミュニティの活性化と地域自治は、これもおおむね妥当というふうには始ま

りますが、サービスの負担と担い手と、それから効果的・効率的視点の中で、ボランティアをやっているから適切なんだという書き方をしているんですね。。日本の中で、地方に行きますとボランティアって無償では支え切れないということはほとんどもう共通認識になっています。

新宿区ではずっとそれでやっていければいいかと思うんですけども、単にボランティアでやってもらえばいいんじゃないかというだけではもたなくなりつつあるのではないか。例えばプレーパークなんか、プレーリーダーは有償なんですよ。決してボランティアでできるような仕事ではないわけで、ボランティアだから適切だ、効率的だというのは必ずしもどうなのかなと思います。しかし、問題ですと言い切るほどの議論の状況ではないと思うので、問題提起的な書き方になっています。

【第2部会長】

個別目標 は、必ずしも評価・進捗状況・今後の取り組みという部分だけではなくて、成果指標そのものがどうなのかということも少し書きました。

というのは、あまり計画事業に出てこなかった成果指標、22年度はこういう調査があるから、ここまでには多分何%になるでしょう、みたいなものが出てきて、そういう設定の仕方がどうなのかということもありまして、個別目標 の1のところだと、成果指標についても書かれています。課題とか基本的考え方ということについては議会を通過しているので、できる範囲のものを残しております。

やはり同じように、例えば、基本目標 - 1「一人ひとりが個人として互いに尊重しあうまち」ということの、事業計画を評価した結果、総合評価や改革方針に改善が求められるものがある。そのため、個別目標の方向性も「現状のまま継続」ではなくて、手段の改善などの必要があるのではないかということで、個別目標のところにも4つの視点での評価が書いてあります。それが計画どおりに進んでいるとか、今後の方針が現状のままということに対していかがなものかということもいくつか書かれていまして、こういう書き方がいいかどうかということもご議論していただければと思います。

他のところもほとんどそうです。特に個別、成果指標等で問題がないところはやはり評価・進捗状況・今後の取り組み方針のところだけを書いてあります。

【会長】

基本目標の「持続可能な都市と環境を創造するまち」というところですけども、個別目標を全部見て思ったのは、構成なのかもしれないけれども、それぞれ各部の担当者が書いているので、非常に統一されていない印象がまずありました。

それから、かなり評価が甘い。というのは、今、第2部会長も言われたけど、個別目標を構成する計画事業が、かなり遅れているとか、かなり評価が低いものがあったり、例えば4事業のうち1つだけで、他の3つは順調にやっているのだから、計画が進んでいるというふうに書いていて、その遅れているものが抜け落ちている印象がありまして、それでいいのかなど疑問に思いました。

それは今回すぐに解決できるとは思いますが、どこかで指摘しておかなきゃいけないとい

う気持ちがあります。

成果指標のつくり方もかなりまちまちで、だから悪いという意味ではないんですけども、要は計画事業の指標がそのまま個別目標のほうに来ているものが多いんですが、僕はやっぱり違うんじゃないか、新たな指標を設定するほうが妥当だと思います。新たな指標でとても好感が持てたのは、区政モニターアンケートで、満足度調査みたいなのをやったり、それこそ本当に最終的に区民が総合的にそのことを評価しているという意味では、そういうのはとても適しているなというふうに思った部分があります。そういうことで、個別目標については、個別目標の評価のルールみたいなものをもう少し改善する余地はあるんじゃないかと感じているので、どこかでそれを指摘したいとは思っています。

例えば、今のところを申し上げますと、成果指標のみの評価であれば、現状のまま継続という評価になるが、個別目標を構成する計画事業の方向性は、50番が事業拡大、51番が手段改善、52・53・54が現状のまま継続と、こういう構成のときに、本当に現状のまま継続でいいのか、もしこれを総合的に見るのであれば、事業拡大という方向になっているんじゃないだろうかという疑問提起です。

これはちょっと厳しい指摘かなと実は思っていますので、特に第1部会の委員の方で指摘があれば、後でお願いします。

次のページですが、都市を支える豊かな水とみどり、これも指標を見ると水の指標は一つもない。みどりと水と書いてありながら、みどりばかりが書いてあるわけですね。ですから、こういう個別目標に書いているのに比して、このままじゃちょっとおかしいんじゃないんですかということ。難しいのはわかるんですけども。

それから、特に、これは僕の個人的見解だけど、新宿区は他の区に比べて後れをとった壁面緑化等を推進している計画事業を持つ個別目標なんです。ところが、壁面緑化等の指標が目標の半分にしか達していないにもかかわらず計画どおりに進んでいるという総合評価は、ちょっと受け入れがたいという印象で、これも少し厳し目に書いています。

その次の「人々の活動を支える都市空間を形成するまち」、これは成果指標のところに、区政モニターアンケートによる道路の歩きやすさ満足度という項目がありました。計画事業のほうにはこういう指標はないんです。ただ、個別目標のほうには、総合評価としてこういう満足度の指標があって、毎年でしょうか、区政モニターで調査して、それがちょっとアップしましたというような表現がありまして、そういうのはいいんじゃないかなと思ったわけです。

細街路のことは、今回の評価の中でかなり大きな問題であるという指摘になっていますので、そこは両論書いています。あるいは、ここの事業の中では、駅の話がたくさんありまして、あるいは河川の話も若干あって、これは区の事業というより、鉄道事業者、河川事業者の事業促進に合わせて区が行うものなので、計画どおりになっていないけれども、ある程度の遅れはやむを得ないということも書いたほうがいいかなと思って書きました。

次は個別目標 - 1「歴史と自然を継承した美しいまち」、ここでまたもう一つおかしいと思ったのは、この項目と次の項目が1つの個別目標の中に1つの計画事業しかないんです。「歴

史と自然を継承した美しいまち」というとても重要な、立派な個別目標があるのに、計画事業がこれだけって、これはちょっと僕の専門でもあるので、意外な印象があります。ただ、計画をつくり出すということが主なので、計画策定した後にこの事業が枝で出てくると解釈すればスタートなんだからよい。だけどこれは、計画ができた後、事業がぶら下がるのかどうかというのも僕もよくわからないので、ちょっとあいまいな表現になっています。

さらにもう一つ、次の個別目標 - 2「地域の個性を活かした愛着をもてるまち」、これも地区計画の計画事業しかないなので、ここが地区計画をやれば地域の個性を活かした愛着の持てるまちができるというのはあまりに短絡的で、また、この個別目標では、計画事業は指標定義の見直し検討という改革方針になっているのに、個別目標は継続となっている。個別目標と計画事業が1対1なのに、評価が全く違うのは、これは明らかにまずいんじゃないかと思います。

【事務局】

それらの2つは会長のおっしゃるようにどちらの個別目標も、その下の計画事業は1つしかなく、個別目標と計画事業とが1対1なんです。

しかし、評価については、個別目標 - 1ではこういう理由だから、計画事業が計画以上に進んでいても、個別目標は計画以上に進んでいるとは言い難い、という形になっていて、 - 2では、個別目標と計画事業の「改革方針」を同じように合わせるべきではないか、としていて、矛盾が生じているんですね。

1対1であればどちらかに合わせるのか、それともどうするのか、これはどういうふうにとつたらいいのかわからないので、目印として資料に下線・網掛けをさせていただきました。

【会長】

統一したほうがいいかどうか。

【第3部会長】

それはここで議論していただいて、後で言葉を足せばいいんじゃないですか。

【会長】

その指摘があるということも頭に残していただいて、後で皆さんと議論したいと思います。

もう一つ「ぶらりと道草したくなるまち」。評価のところで、散歩道の整備延長達成率が45.5%ということでは、達成度は低いんじゃないだろうかということがありましたので、改革方針が違うんじゃないかと。

ここでも混乱を招くかもしれませんが、手段改善と事業拡大というのは両立するんじゃないかと思ったので、このように書いてあります。

【第2部会長】

その点は、実は私のほうにもありまして、21年度の評価方針で、方向性で7つあるわけなんですけども、例えば手段改善して事業縮小もあるし、手段改善して事業拡大もあって、手段改善と例えば事業統合というようなことも、2つ手段改善というのが入ってくるんじゃないかと思ったんですね。

そこを、無理やり1つにするので整合性がとれなくなるということもあるのかという気もし

まして、その辺をどのような形がいいのか、どれか1つというのがどうなのかというのが確かに少し気になりましたので、後でここをご検討いただければと思います。

【第3部会長】

この次の基本目標 については、個別目標1と2は大体いいと思いますので、各計画事業の外部評価で指摘したところを見てくださいということです。

個別目標 3については、またいろいろとありまして、この個別目標3は、「ひと、まち、文化の交流が創るふれあいのあるまち」、基本目標は「多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を創造していくまち」という非常にすばらしいネーミングなんだけど、計画事業の中を見ると、1つにまとめられないようなものがくくりられているんですね。

こういうものが生ずるのはやむを得ないのかもしれないかもしれませんが、これは要するに概ね3つなんですね。平和啓発事業も入れて4つで、観光と商店街活性化、多文化共生というふうにあるんだけど、これはくくりにはなかなかできないのですね。

ただ、それ自体が問題なんじゃなくて、その下線部のところに書いてあるように、これは個別目標のシートだと、サービスの負担と担い手から始まって4つの視点にわたって評価されているんですけども、それぞれの視点のところで一番都合のいいものを取り上げている感じがするんです。一番現れないのが多文化共生なんです。多文化共生は視点の4番目ぐらいにあったか、3つなら3つ、4つなら4つ、それぞれについてやらないと、その他のところで性質が違うものをくくりにしていますので、都合のいいのだけ視点のところに書いてうまくやっていますというふうに書かれている感じが非常にあって、その他のところの項目は全体に注意してほしいということを書いています。

商店街活性化については、おおむね首肯されるもの、と書いているけれども、協働の視点からももう少し考えたほうがいいのか、ということをおおむねのご意見に基づいて書き込むつもりですので、ここも少し表現を変えたほうがいいのかと思います。おおむね首肯されるじゃなくて、計画事業評価のところを変えてほしいというようなことですね。

その下にまた下線がありますけれども、このことは言わずもがなというか、評価書の最初に書くべきことなのかもしれないですけども、基本的にはこういう態度で外部評価をすべきだとは思いますが、多文化共生については、こういうふうなものということを書いています。

これは先ほど、私の観点が強く出過ぎているんじゃないかというふうに言ったことと関連していますけれども、多文化共生プラザの役割について、実践した結果を質的に評価するという視点が欠けているんじゃないかという指摘です。

【会長】

結構大変なことだったので、もうちょっと時間をかけて皆さんとやるべきだったかなという反省もあるんですが、ここまでやったので、今日ぜひご意見をいただいて、修正可能な部分は修正したいと思います。お気づきの点がありましたら言ってください。

【委員】

基本目標 - 1の「だれもが互いに支え合い、安心してらせるまち」というところの成果

指標への指摘に、「介護サービスを在宅で受ける者の割合を増やすためには、区の在宅サービス量を増加させる必要がある」と書いてあります。これはもちろんだと思わなければならないけれども、どうしても在宅ではできない介護というものもあるので、介護施設についても書いていただきたいと思います。

例えば、特養ホームが29人定員を増やすということで、計画どおりいっているからまあまあというような内部評価になっていると思います。けれども、そういうホームに入るための待機者というのは今1,200人以上おられます。1,200人の中の29人増えて、全員は無理ですけれども、焼け石に水というようなことを言っている人もあるんですね。

そのあたりの目標のとり方、示し方ですね。29だけ書いてあって、その29人達成できましたというのだと、それで済んでしまうんですが、1,200分の29とかいうふうに待機者分の定員数ですか、そういう形で書くと、どれだけそれが不十分かということが示せると思うんですが。

【第2部会長】

それは多分、計画事業31の介護保険サービスの基盤整備のところに出てくる問題になってくると思うんです。ここで何で在宅だけ書いたかといいますと、内部評価報告書の32ページのところになるんですけれども、個別目標として、成果指標の中では、「介護を受けたい場所」で「在宅」の割合を増やすということだけしか書いていないんですね。成果指標の中で介護保険サービスの基盤整備の事業計画のすべてを盛り込んではいないんです。

逆に言うと、この個別目標で在宅サービスを充実させると言っているんですが、計画事業の介護サービスの基盤整備では、結局、在宅云々というよりは、小規模多機能をつくり出すという形になっていて、結局計画どおり進んでいないということを認めているんですね。

ですので、こちらのほうとしては、計画どおり進んでいないから、現状のまま継続ということに関しては現状のままじゃまずいんじゃないかというふうに言っているんですが、例えば今おっしゃいましたように、小規模特別養護老人ホームの定員数を29人に増やしますというのは目標値に書いてあります。ただ、そのときに今おっしゃいました待機者何人かというようなことというのは、私どももここ介護保険に関しましてはヒアリングしておりませんので、その辺のことは聞いておりませんでした。

【第3部会長】

一般に保育園にしても今の特別養護老人ホームにしても、待機者というのは世間的には大きな問題になるということは、外部評価委員会として、世間常識での意見として、適切な場があれば構わないんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうか。

【会長】

計画事業には書いていないのですか。

【第3部会長】

計画事業のほうはそういうふうになっていないですね。

【第2部会長】

そこで、逆に言うと、計画事業のほうには、在宅の割合のことは触れていないんです。先ほ

ど会長おっしゃったように、個別目標と計画事業の内容が必ずしも一致していないというのがいくつかございます。

ご指摘のことはすぐわかります。どうしましょう。

【会長】

その1,200人ということをごどこかに書いたほうが、29人という設定にまだ問題があるということがわかりやすくなるわけですから、計画事業のほうに書くか、個別目標のほうに書くかは、ちょっと第2部会長に考えていただきましょう。

【第2部会長】

ただこれは区の介護保険事業計画とか、そういうものと連動しているので。

【会長】

でもそれは、ここの会でそういう区民感覚の指摘があったということはむしろいいんじゃないですか。

【第3部会長】

個別目標評価のほうに書くのがやりやすいんじゃないですか。

介護保険に限らず、指標として待機者の数にも留意してほしいとか、ちょっと書くというのは。個別の計画事業は、確かにそういうことを書く余地がないような気がします。

【第2部会長】

その辺が、親計画があって、その親計画である意味でもう区では方針を決めてしまっているわけですね。

【会長】

でも、そう言ったら指標を一つも評価できなくなってしまうんだから、ここでは、区民感覚、区民目線でそれはちょっとというご意見があるならば、書くことはやぶさかではないですけど。

すべての事業の評価なので、外部評価委員会で指摘があったということを含めて、親計画のほうにどんどん波及をしていくこともねらいの一つなんだから、全体を変えるとは書けないけど、そういう意見が出たということの指摘はどこかでしたほうがいいんじゃないでしょうか。

【第2部会長】

計画事業のほうですね。

【会長】

褒めるところも褒めているんだから、ちゃんと指摘するところはやっぱり指摘したほうがいいと思うんですけど。

【委員】

ここの表現は、区の住宅サービス量は増加させる必要がある、その次に、待機数等も考慮して成果指標を定めるということが必要ではないかというふうに指摘して、この介護サービス量ではかるといふのを、待機数を考慮して成果指標を定めるということをしてくださいというふうに言いかえておけばいいのではないですか。

【第2部会長】

そうですね。

【会長】

他の項目でご指摘ありますか。

【委員】

基本目標、個別目標「一人ひとりが個人として互いに尊重しあうまち」、この計画事業7、8、9は非常に大事な問題であると考えて、その計画事業のところで評価したわけです。

それをここのところで書いてあるわけですがけれども、この報告書を区民の方等がごらんになった場合、この事業のほうで我々が指摘しているような、この目標が大事な目標だから、それに対してこういうふうにやっていきましょうというニュアンスにとれるかどうか。一般的に読むと、大体やっていることはいいけれども、やり方を工夫したらどうという程度にとれてしまいはしないかと思います。

我々の指摘は、成年後見制度にしる、男女共同参画にしる、ワーク・バランスの問題にしる、結構本質的な問題の指摘だということで、表現を若干、部会長に鉛筆をなめていただくとありがたい、こういうことです。

【委員】

個別目標 - 5の計画事業25から29のところですがけれども、ここの記述は、協働の視点が少ないと感じるとか、協働の視点が薄いと感じるという程度のことではなくて、協働の視点を持ってしっかりやってくれというふうに言いたかったんですけれども。要は、協働の視点でやりましょう、協働の視点でなければ効果がありません、そう言いたかったということです。

【会長】

ありがとうございます。他にございますか。

【委員】

全般的な話で、個別目標の評価のところの書きぶりなんですけど、基本的には計画事業の評価が前提にあっての話だと思いますので、基本的にはその枠の中で記載すべきなのかなと思います。そういう意味で、どこまで書いたらいいのか、あまり踏み込んで書き過ぎると、計画事業との評価との齟齬が出る場合もあろうかと思いますので、そこは慎重にお考えいただければと思います。

あと、全体的な取りまとめ方として、個別目標の評価が、今回新しく出てきているんですけれども、これを区民の方がご覧になった場合、網羅的というか、個別目標ごとの評価なので、全体としてどうなのかわかりにくい気がします。何か全体を通じてこういうところに留意していくべきですみたいなまとめが必要なのかなと思います。

ですから、第3章の前に、この全体を俯瞰したような行政当局、内部評価に対する注文事項みたいな、総括的に何点がまとめられると、よりわかりやすいのではないのかなという気がします。

【会長】

おっしゃるとおりで、冒頭もちょっと申し上げたように、個別目標というのは初めて今回や

りましたものですから、そもそも個別目標の内部評価が計画事業とほぼ同じ方向でいいんだらうかというのは素朴な考えとしてあります。

試みでやられたということだから、我々もここまで評価したという視点で、今後に向けて何か書きたいと思うんですが、内容ではなくて、むしろ内部評価の方法について書いたほうがいいのではないかと考えています。

それは今日ご指摘をいただければ書こうと思っています。

【委員】

個別目標のほうは、いくつかの部が担当していますね。そうすると、どこの部が書いているのかというのを率直な疑問として感じました。

それぞれの部が協力して情報を取り合ってきちんと取り組んでいるのかと、この評価シートを見ると、どうもぎくしゃくとして、個別目標に向かって一致団結して進んでいないような印象を正直言って受けたので、お互いの協力がちょっと欠けているのがまさにここにあらわれているという印象を私は受けました。

【会長】

なるほど、それは重要な指摘かもしれません。

これは、どこかの所管が書いて他の部が引用等をしているのでしょうか。

【事務局】

担当部を決めさせていただいて、そこを中心に書いているんです。個別目標のほうはまさにそうなんですけれども、まず個別の課でそれぞれ必要な部分を書き、そのデータの集まってきたものを担当部が書いています。

【会長】

じゃ、3つ4つにまたがっているところは、1つ決めちゃうところがあるんですね。

【事務局】

どこか1カ所、こちらが担当してもらおうと決めたところが書いています。

ただし、そこで全部は書き切れませんので、当然他のところから必要なデータももらってくるといふうにして書いています。ですので、どうしても正直なところ自分の得意なところが強くなってしまう思いはあると思います。

【委員】

部会長が総括的なまとめを前書きみたいな形でお書きになる予定ですか。

【会長】

今回は、はじめにというのはもちろん書きますが、昨年の報告書は総合評価というのがかなり大きな部分を占めています。それは今回は書かない。今回は、個別目標の評価、計画事業の評価をそれぞれやって、それぞれの問題点あるいは不整合性というような課題は指摘しますが、総括でまとめは書かない。それは非常に難しい。

【委員】

会長に何がしかそういうことを書いていただけるといいと思うことがいくつかあるんです。

それは、我々外部評価という役割を、内部評価を評価するという形で3年間やってきておりますが、隔靴搔痒といいますか、例えばなぜこういうことをやるのかとか、いつまでこういうことをやるのかとか、そういう視点でどうしても見てしまう部分があります。

その主張が強過ぎると外部評価を逸脱する部分がありそうなので、それなりに書かなきゃいけないんですけども、今日、国の事業を見直すような大きな社会変革の中で、新宿区の行政についても、そういう視点を持てる場所はどこなのかというと、今新たにできれば別ですけども、見たところ外部評価委員会、ここが一番そこに近いところにいるわけです。

内部評価だけを評価するというのを、もうちょっと踏み出すというか、この辺言っていたいてもいいんじゃないのかという思いが私はあるんです。全体として、来年に向けてそういう視点があってもいいんじゃないかと感じるので、会長がその辺をどう総括といいますか、どこかの文章に出していただけるかという期待をちょっと持って申し上げました。

【会長】

さっき第2部会長の問題提起の部分のことで、親計画があるから踏み込みにくいんじゃないだろうかというのは、まさにそういうことと関係しているわけですね。

僕らは、与えられた任務をきちっとやるということを考える、内部評価で出てきたものをきちっと評価する。だけど、そのことは読む人によっては、内部評価の原点である親計画みたいなものにも影響を与えるんだというふうなニュアンス、そういうふうにも受けとめられるように書かないと外部評価の意味がないわけで、だからといって、内部評価を超えて評価いたしませんというふうには公には書けないわけで、そこは行間を読んだり、表現の問題で少しそこをにおわせるという程度なんじゃないかと僕は思うんですね。

【委員】

それともう一点、適切な指標という視点で見ますと、指標が正しくないと、もう事業計画、成果はもう計画以上であるみたいなものが散見されますね。

その指標の置き方ですけども、例えば協働事業の提案事業のケースで言いますと、そういう事業を区が何のために支援するかといったら、その恩恵が区民に反映されてこそ意味があるじゃないですか。でも、内部評価を見ても、そういう視点じゃなくて、何件手を挙げましたとか、そういう視点で捉えられている。区民に対する行政サービスの手段ですから、そこが、だれのために、何のためにという点が指標にきちっと位置づかないとおかしいんじゃないかと感じるので、そういうことをどこかで触れていただければと思います。

【会長】

総合評価というのは今回書きませんと申し上げましたが、別なタイトルで似たようなことを書こうというのは、昨年ここでかなり指標の問題を書いているわけです。だから書かないという意味ではなくて、書いたのにまだ改善されていないということは少し指摘しなきゃいけないと思うんで、網羅的に全部書くというのは去年と同じになってしまうのでやらないということで、おっしゃるとおり、適切な指標というのは今回もますます難しくなってきたと思います。

でも、改善はきっとされているし、これが計画文化、計画評価の文化というのが次第に努力

されている中で試行錯誤しているんだらうと思うので、そんなニュアンスでは書くべきかなとは思っています。

【委員】

去年とどのくらいこうなったかというのもぜひ出してほしいと思います。

去年これだけ問題がありますというので、努力はしていらっしゃるでしょうし、それから区の体制として、内部評価を立ち上げた頃よりはずっとよくなっている。区民の目線というのが今まであまりなかったのが、区民会議から発生してチェックしましょうという感じでこれが出てきているので、やはり職員の中に目覚めてきていらっしゃるかなと思うので、内部評価という枠はあるかもしれないけど、もうちょっと目覚めてほしいというところを入れてほしいです。そうじゃないと、意味がないので。お願いします。

【会長】

はい、おっしゃるとおりです。

【委員】

先ほど事務局から、この内部評価の個別目標はどういうプロセスでここへ上がりましたと説明がありましたよね。かなり内部の中では各課が時間をかけて部に上げて、こういう表現ができたと思うんです。

今日私ども、会長から個別目標の内部評価を評価をされると言われまして、大変参考になったわけですが、私どもが進めたのは、あくまでも計画事業に対する評価なんですね。その計画事業の評価を個別目標の評価に転化するというのは、すぐは、なかなか私の頭の中で難しい感じがいたします。

少なくとも3人の部会長が大変な努力で記載したんじゃないかということを感じるのですが、計画事業の評価と個別目標の評価がフィットしないような感じもしないでもないんですね。

それから、区民の視点でいろいろな意見が出ましたけど、私は最も影響があるのは、基本目標 計画事業4の地区協議会への支援だと思うんです。10地区でもう3年取り組んでいるわけですから、大変評価が区民も行政も気になる場所であると思うんです。ですから、こういう計画事業の評価でよろしいかどうか、不適も多いということがありますから、非常に与える影響は小さくないなという感じがします。外部評価委員の中にも、直接地区協議会にかかわっている方もいらっしゃるようですから、その辺はもう一回見直したほうがいいのかなという感じも私は個人としては持っています。

【会長】

個別目標の表現は、計画事業の評価のように部会・委員会でやっていないので、慎重にというご意見ですね。

【委員】

整合性があるのか否か、いわゆる計画事業と個別目標が一体になっているかどうかということとは、もう一回吟味したいなと思っています。

【会長】

わかりました。

【委員】

3つほどあるんですけども、この個別目標評価をどういう観点で書くのか。計画事業の評価の上に乗ったまとめみたいなつもりか、それともそこでは書き切れなかったことを書いているのか。実際にこの書類を受け取った人たちがどこまで読むか。忙しい人は個別目標だけ読んで計画事業評価のほうは読まないんじゃないか。ここにかなり集約みたいなことを抜け落ちしないように盛り込んでおかないといけないんじゃないかということが1つ。

それから2つ目は、ちょっと全体の基調が甘いと思います。外部評価としては、PDCAのサイクルを回す中に入っている。そうしたら、もうちょっと厳し目、辛口の指摘がないとまらない。去年指摘してもちゃんとされていないところもあるのは、そういうところは読まれていないんだと思います。行間を読んでほしいと思っても、読まれていない。もう直截に物事を申し上げたほうがいいんじゃないかなと思いました。

それと、来年が我々としては外部評価最後で、今年計画事業を全部評価するということは、外部評価のあり方みたいなことも何か反省しようということにしなかったですかね、一番最初に。そういう行為をやるんだったら、そこへそういうことを書くのか、この外部評価のあり方、これからの方向性とかいうことをどうぶつけるのかというのが3つ目です。

個別としては、-1のところでは私が非常に凝っているのは、協働提案制度が厳しいという表現になっていますけれども、その前に仕組みづくりについて行政としてもさらに深めていくべきことが期待されるという表現が、計画事業の評価のほうには、改善して考え直すべきというようなことが書かれているんですけども、その辺の、計画事業でかなり厳しく書かれていることを、もう一回ここでまとめみたいな格好で言ったほうがいいのか、こういうところの表現ですとか、それから次の2の地区協の問題というのは、今、地区協のあり方というのはあいまいもこととしていますし、もうちょっとちゃんとしたあり方を模索すべきだというようなことは何か書いてほしかったということ、それから個別目標 -2の計画事業79、80、81では、79と81というのは全く同じようなことを事業としてはやっているんですよ。その評価では、2つの事業が、しかもこんな立派な名前の事業がある必要はないので、統合して効率化してくださいということをかなり強調したつもりなんですけど、そういうことがここでは書かれていない。

あと、の3のところでは、先ほどの商店街の問題で、この表現だと、商店街活性化の内部評価を主に首肯されるということ。

【第3部会長】

それは訂正するとお約束しました。

【委員】

いろんな改善を盛り込んでいってほしいという意味では、この辺の表現をもうちょっと改善していただきたいということです。

【会長】

たくさん指摘がありましたけど、1つはレイアウトの問題もあると思っているんです。

個別目標と枝になっている計画事業が一本化されて読むほうがよろしいんじゃないかということで、できれば個別目標を評価した後に計画事業が来て、順繰り順繰りに行くという、そういうほうが読みやすいので、もし可能ならばその順番に修正してください。

そうじゃないと、先ほどおっしゃったように、個別目標を誰も読んでくれないとか、自分の所管はこれだけだって、大もとの中項目は関係ないとなりがちなので、そうならないような工夫をレイアウト上の工夫でできれば、ちょっとは改善されるかなと思います。

今、もっと辛口で書けという表現と先程の議論していないから少し書きにくいという側面も我々にはあるわけでありまして、そこはもうしょうがないですね。だからといって個別目標を除いちゃうというのもやっぱりまずいので、来年に向けて少し課題を残しながらも原則は計画事業の評価を踏まえて書ける範囲で書かせていただこうと思うんですが。

ただ、個別目標のタイトルと計画事業の構成がおかしいという指摘があれば、これは計画事業のところで議論していないけれども、指摘せざるを得ないので、それは指摘させてほしいと思うんです。

【委員】

個別目標 2の網かけになっている部分は、個別目標の改革方針の見直しが必要だという表現で、ここのところは、網かけの部分の表現をしておいていただいたほうがいいんじゃないでしょうか。それから、ここの冒頭は、この目標として、というふうに、ずばっと言うていくことがいいんじゃないか。それは随所にあるんですけども、例えば個別目標 -1のところ、行政としてもさらに深めていくべきことが期待される、という表現は、深めていこうとか、いきたいとかいうふうにさらっといったほうがいいんじゃないかと思います。あるいは、委員からの厳しい認識が示されていますというの、例えば委員会としてはこういうふうなことなんだしていただいたほうがいいんじゃないでしょうか。

次の個別目標 -2では、内部評価はおおむね妥当と考えるというのは要らないんじゃないでしょうか。一番最後の計画事業82から86は新宿区の特長ということからして、ある意味では大事なところなんですけれども、委員会としてこういう認識だったというようなことで、もう少し表現をうまく丸めていただくと、と思います。

【第2部会長】

先ほど会長のほうからもあったんですが、個別目標の次に、それにかかわる事業計画の評価を書くということは可能ですか。

【事務局】

並べかえは大丈夫です。

【委員】

-2の個別目標の評価の中のコミュニティの件で、有償がどうかという議論の実現がないのでちょっと申し上げたいんですが、町連と地域センターと地区協というのは大体みんな一緒なわけです。地区協議会では少しは公募しますから別の人も出てきますけれども、地域センターとか町連は大体みんな同じ顔ぶれです。そこにお金を去年あたりから200万つぎ込んで、そ

れを消化しなきゃいけないから何かやらなきゃいけないということになってくるわけです。むしろ、町連に少しずつお金を渡したほうがまだいいような気がするんですよ。そんなこともあるので、有償の問題、皆さんでちょっと意見をお聞きしていただけないでしょうか。

【第3部会長】

今たくさん意見が出たので、大変わかりやすくなったような気がしております。

まず、個別の基本目標、個別目標1の直截に書くという件は改善したいと思います。

それから、今の基本目標の個別目標1のところの最後の「ネットワークづくりの拠点」のアンケートでの件、これは確かに計画事業のところに書いてあるんですね。ですから、そちらで書くべきであって、そちらで議論しなかったのであれば、ここに出すべきじゃないと思うんですけれども、アンケートをしているのは、部会の議論が終わった後だったことなんです。もし差し支えなければ、先ほどから出ているように、この個別目標評価がやや総論的な意味合いがあるので、これは残したほうが思っております。

次に基本目標の個別目標2ですけれども、ここはさっきから地区協議会に関するご意見がいろいろ出ているんですけれども、これは個別目標のところにやや抽象的に書くのが一番いいかなと思っております。個別の計画事業の中で極めてやりづらいので、よろしければこの個別目標評価のところに、地区協の位置づけを明確にして発展させてほしいというようなことを書いたらいいんじゃないかと思っております。

それから次に、今ご議論のありました有償の件ですけれども、今見てみましたら、計画事業のサービスの負担と担い手のところに出てくるんです。今回、部会でそこについて議論してないので、この部分は削除してはどうかと思います。次に、その下の効果的・効率的な視点というところがありますね。ここでも有償性を問題にしているわけですけれども、効果的・効率的な視点のところでは、計画事業の評価ではこのところ書いていないんですよ。だから、そこで個別目標の内部評価と計画事業の内部評価とが何かちゃんと合っていないというか、そんな一例なんですけれども、個別目標評価のところで初めて効果的・効率的な視点で活動がボランティアだから効果的だと出てくるんですね。ですから、この部分は存置しておこうかなと思います。現実問題としては、ボランティアだから効果的あるいは効率的であるというふうに直に言えるかという、それは一概に言えないんじゃないかという、そういう話なので、それは存置してもいいんじゃないか、財政的に効率的とは言えるかもしれないけれども、効果的・効率的な視点というのは、それだけの意味じゃないんじゃないか、そういう趣旨です。

それから、基本目標、個別目標3のところ、平和啓発が抜けていたので加えたいと思いますが、あと、外部評価者というところは、委員会としてという表現にしたいと思います。

それから、おおむね首肯される云々で終わるところですけれども、このところは、むしろさっきご議論のあった協働の観点から常に新たな施策を発生していくべきで、マンネリで同じことをずっとやり続けるのはよくないという趣旨のことを書こうかと、個別の計画事業にも出てくることになるわけなんですけれども、ここでも、ここでのご議論を聞いたなりに考えて、その個別目標評価でもそれを書いたほうがいいんじゃないかと思っておりますので、おおむね首肯さ

れるという評価のみならず、全体を協働の観点からマンネリに陥らない事業を考えていくというふうな内容に書きかえてはどうかと思います。それでどうでしょうか。

【委員】

今のところの最後はいいことが書いてあるんですけども、先ほどの指標の問題とも絡んで、量的よりも質的な評価をなさいたいということが書いてあるんですね。こういうことは全体の問題ですよ。だから、こういうのをどう表現されるか。

【第3部会長】

もう一点は、その各論的なものになるんですね。時間切れで適切な表現を見出さずこうなっていますけれども、本当に言いたかったのは、多分プラザをつくったときの政策的な考え方とプラザの実際果たしている機能とは違ってきているという個人的な判断なんですね。実際果たしている機能は中間支援的になっているから、あそこに外国人が何人来たかという指標は意味がないんですよ、極端に言うと。

【委員】

それはわかるんですけど、全体の指標として数字目標というのを上げなければいけないのだけど、それだけでいいのというのがどうも評価指標としてはいいのかなという、その辺をどう改善していくかという非常に難しい問題だと思うんですけどね。

【第3部会長】

多分、その点について、行政のほうはむしろ質的に評価すると数字がないじゃないかと責められるので、工夫をして数字が出るようにしてきたと思うんです。

ただ、それで、実際そればかりになってしまうとやっぱり我々としては何か納得いかないわけですよ。その数字ばかりでいいのと。そう思ったんです。確かに総論というものがあるとすれば書くべきことではないかという気がしました。

【委員】

最初ご説明いただいた基本目標の個別目標1の、なお書きのところ、社会貢献活動団体のネットワークづくりの拠点設置云々のところですけど、計画事業のところでも出ているというのであれば、計画事業の評価のところでも触れていただいたら整合性がとれるんじゃないかと期待するんですけども。

【第3部会長】

確かにこっちだけに出てくるのは変ですよ。計画事業の評価の適切なところに入れてもよろしいですね。

【委員】

有償ボランティアの話をとっていましたが、指定管理者という感じで、あれは初めはボランティアでやっていたところを指定管理者にしているようなところも見受けられます。だから有償というのもさらっと書いておかないと、本当のボランティアではなくて、下請ボランティアみたいな感じが出てくると、それは違うんじゃないかなということが、指定管理者なんかの方たちを見ているとあるんですよ。

【第3部会長】

この箇所は削除することにして、ただ効果的・効率的な視点については、計画事業評価に何の記載もないのに、個別目標評価では上がってきているので、これに対してはごくさっと、効果的・効率的だと常に言えるわけではないという技術的な指摘をしたわけです。

【第2部会長】

今回、結局私どもが昨年度指摘した内容に従って、評価をサービスの負担と担い手、適切な目標設定、効果的・効率的な視点、目標達成度という形でやったということなわけですね。それは外部評価の意見を聞いていただということです。

それと、区が進めている全体の取り組みの初年度の事業を評価したという2点があるわけですね。

今年度は評価対象が第一次実行計画の初年度です。今2年度目が進んでいまして、来年度私どもは2年度目を評価するんですが、既に22年度には今度また新しく次の計画がスタートする可能性があるわけですね。23年度に具体的な計画を立てて、区が新しくまたローリングがスタートする。

19年度の結果というのは、結局私ども評価しにくかったというのが、実はもうなくなっていますとか、どこか統廃合されていますとか、担当が変わっていますとかと言われて、昨年のヒアリングのときはとても困ったという思いがあります。

ですので、ある意味で今新宿区が進めている計画の最初の年だということの一つ押さえるということと、あと先ほどから出ていますが、基本目標、個別目標とやっている内容と、個別の計画事業というのは必ずしも整合していないということはなぜなのかということは書いていただきたいと思うんですね。そこで出している課題なり考え方なり、また成果指標なりが、必ずしも個々の事業の中に取り入れられていない。そのために、個々の事業を評価しているところから改めて個別目標を見ると、こんなの書いてあったかしらみたいところがぼろぼろ出てくる。

果たして、そういう形の計画の上下関係がもしあるとしたら、それでいいのかというご指摘を会長のほうから全体的にさせていただいて、ただ、だからといって直せないわけですね。来年直せといったって、多分この事業計画は組みかえってできないですね。

今回個別目標を評価したときに一番思った点は、22年度、23年度にはもう次の計画ができていますから、来年度私どもが今年度の評価をするときに、行政は次の計画を考えているという状況ですので、何かそのときに今みたいな齟齬が起こらないような指摘を私どもも積極的にしていくということも必要なのかなと、それはどこかで書いていただくといいと思ったんですね。

【委員】

今の関連で、細かいですけど、これをやりながら区民の疑問とか視点が出てきましたよね。そういう次の計画のためになるようなことは、どこかで残していただきたいと思うんです。そうすれば、随分ヒントにはなるかもしれません。前は区民会議があって計画ができましたけど、この次は区民会議がありませんから。

【委員】

今のことに関連して、まさにそのとおりだと思うんですけど、我々がやっているのは事後評価だと思うんですね。現にやっているのは20年度の結果についてですけども、実際に今はどういう状況かということ、21年度の事業が既に進行して、半年ぐらい終わってきているわけですよ。その一方で、さらに22年度の概算要求とか、そういう時期になってきているわけです。

そういう流れの中で、我々の作業というものをいかに有効に果たしていけるのかといたら、例えばよくないですけども、もぐらたたきみたい、20年度の成果からいろいろ問題が出てきたらその都度指摘して、とにかく何でも指摘していく。行政の計画づくりは、なかなか簡単に変更とはいかないのかもしれませんが、その都度問題点があったときに指摘していく、それが将来的に有効な改善につながっていくという気もするんです。そういう意味では、本当に問題が生じた都度とにかく指摘していくという姿勢というか、それが大切なんじゃないのかなという気がいたします。

【会長】

先ほども申し上げたように、総合評価はいたしません、課題の指摘なり、提言というほどじゃないけど、ある程度の提案については書きたいと思います。

我々が成果指標の設定の仕方がおかしいんじゃないかと、数字の立て方がおかしいんじゃないかといったものが来年は改善されないのですか。

【事務局】

外部評価で指摘された点については、当然実行計画のローリングの中で、総合判断が必要があれば見直して、指標も変えていきます。指摘されなくても、自らこの成果指標じゃまずいとやっている分は当然、来年度の事業運営では変わっていくことになります。

個別目標自体を全て組みかえるようなものはちょっとできないだろうと思います。

個別目標の中に、計画事業以外に経常事業が組み込まれている関係で、先ほど来議論があるように、計画事業と個別目標で内容が若干齟齬があるという部分は、内部評価をしているときに、計画事業と個別事業の見方をどうしていくんだというような中で議論があったんです。

経常事業については、経年で目標値等を具体的に示しているわけではないので、基本的には計画事業を中心に個別目標について評価して、そこに書き切れない経常事業の特出すべきものがあればそれを加味した表現にして内部評価をまとめるという形に整理しきれなかった部分があります。それで、経常事業が含まれているということで、計画事業だけで持ってきた部分とはやはずれが出てきます。

【第2部会長】

例えば、この分は経常事業でやっていますみたいな書き方は難しいんですか。

【事務局】

それは可能だと思います。計画事業以外のものを個別目標の評価の材料としているときにきちんと書き込めばもちろんいいんですけども、そこは十分浸透していない段階だと思います。

【会長】

そうすると、個別目標の成果指標に経常事業の成果指標が書かれているということもあり得るわけですね。

【事務局】

経常事業自体は何年度にいくつ達成するという指標はありません。もともと個別目標は、こういう成果指標を使いますというあらかじめ定めたものがあります。それが計画事業の成果指標と一致していなかったものがそのまま来ている。

【第2部会長】

例えば個別目標で水とみどりとなっているとき、計画事業ではみどりしかないというのは、もしかしたら水は経常事業かもしれないということですね、今の課長のお話ですと。私のところにもあったんですが、個別目標のところ、その一部しか計画事業化されていないという印象を強くしたんですね。あるものに関しては、それはもう経常事業でやっていることなんだと。

今回中心的にやりたいのは、個別の計画事業として出ているという書き方だとすごく安心して個別評価ができると思うんですね。だから、次年度内部評価をしていただくときに、経常事業に関しては、この部分で経常事業としてもうやっていますという書き方を個別評価のときにしていただくと、安心して評価できるかなと思いました。

【第3部会長】

さっきの待機者の話もひょっとしたら経常事業かもずっと不安に思っていました。

【事務局】

待機児童は、前の計画では計画事業だったんですけども、一時、待機児が少なくなったので経常事業に組みかえた途端に、また急に増えてきたというものです。

【第2部会長】

経常事業に入り込んでいる可能性もあるかもしれないんですよね。

特養の待機者とかは、個別では待機者数何人とか出てこないんで、その辺が書かれていると安心して考えられるので、書き方の問題としてお願いしたいと思います。

【会長】

経常事業のことは全部は理解していないので、我々が書いた中で、事務局として全体から見て指摘していただくしか方法がないので、それはさらにもうお願いをしたいと思います。

もう一つ、先ほどレイアウトの話をして、第2部会長からも少し補足していただいて、レイアウトもそういうふうにするとして、もう一つ僕が気になってまだ結論が出ていないのがあるんです。

内部評価実施結果報告書15ページに、個別目標評価一覧表というのがあるんですよ。見ていただけますか。これは、個別目標の評価結果がありまして、今後の方向性というのが継続とか拡大とか改善とか、これはとてもわかりやすく整理されているんです。

もう一方、71から73ページに、計画事業の評価結果と今後の方向性がA、B、C及び拡大と示されています。

この2つの表は内部評価の結果ですよ。僕らの外部評価の結果も、文章では書いています

が、A、B、Cという評価はしていないんです。もし許されれば、これを内部評価はBだったけど、外部評価はCだったと記載するというのもありますよね。

これを一覧表をつくったほうがいいんじゃないかという気がするんです。ただ、と気になるのは、あまり明確に書いていないところもあるわけです。そのようなところは内部評価がBなら外部評価もBなんだろうと思います。

でも、いずれにしても我々は、A、B、Cの評価をしているんじゃないだろうかと思う。やっていないからわからないですよ。ただ、一覧表に載せて、あれっ、何で食い違っているんだろうというふうにして文章を読むというようなことが可能かなと思っているんです。

さらに、それに個別目標と計画事業も並べて、個別目標がBというのがある。ここに枝が並んでいて、今度はこっちに事業評価がA、B、Cとコメントがある。全部の結果だけが一覧表になっていて、それを見て自分の担当するところが、計画事業がこうで、個別目標がこうだという全体像がわかるというのか、それから文章を読み始めると、とても効果的で、結構それが出ると辛口なんじゃないかと思うんです。

それについてご意見、何かあればご指摘いただけますか。

総合評価のところ、適となったらBはBだし、AはAだし、CはC。不適となったときに、どっちに転ぶかわからないけど、BはAだとか、BはCだとかにする。

【委員】

先ほど会長がご説明になった事柄で、個別目標 - 1の「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」というところでご指摘になっているところで、現状のまま継続という内部評価になっているんですが、その個別目標を構成している計画事業を見るといろいろあるんで、全体としては事業拡大ではないかというようなご意見をおっしゃっているんですけど、こうしたときに、じゃどう評価するかということがありますよね。

いろいろ判断のある場合そういう難しさはちょっとあるのかなと思います。

【会長】

確かに書けないところはあるかもしれませんね。

【委員】

このA、B、Cですけれども、これは計画に対してという評価なんですよね。私どもは、求められているのはそうかもしれないんですけども、区民目線でいったときに、その計画が妥当とは言えない、あるいは指標を小さくすることで、計画以上に進んでいるみたいなものもあつたりしたから、それは違うという問題指摘をしました。そうすると、そういう場合、どういう評価になるのか、ちょっと微妙な感じがします。

【第3部会長】

それは、適、不適が何に対する不適なのかという、そういう翻訳をしないといけないという理由ですね。

【会長】

適、不適とつけているわけだから、確かに改革方針については不適にしたけれども、改善な

のか、拡大なのか、縮小なのかについては述べていないから結構悩みますが、総合評価の適、不適について、A、Bは出ているんじゃないですか。

【第3部会長】

内部評価で計画どおりじゃなかった、計画以下だったということに対して不適にしていれば、それは我々のところもCになるでしょう。

【会長】

それなら、そういう変換をちゃんとするということですか。

【事務局】

もし事務的にやるのであれば、個別目標のほうは、適、不適はついていませんのでできないんですけども、計画事業のほうは、不適であれば、例えばここはマイナス1にする。つまり、BだったらCにする、適だったらそのまま、ということならできると思いますけれども、中身を勘案してとなるとちょっと厳しいかなと思います。

【第3部会長】

例えば、計画以上にうまく進んだという評価に対して、不適というのはBなのかCなのかという。事務的にはBとするほかないわけですけども、我々としてはCとしたいというのがあるかもしれない。むしろCとしたいんじゃないですか、その場合。

【委員】

外部評価として、内部評価の結果について適とした場合、例えばB評価に対して適とした場合に、我々の評価がBになるのかどうかというようなことがあると思うんですよ。

私どもは、ヒアリングとか、それを通して行政の中身を聞いて判断しているだけで、言うなれば実態というか、正確なところがわからない中での評価なので、そういう場合に内部評価でBにしたから適ということで、我々もBという評価を与えていいのかどうかということがあると思うんですけどね。

我々がやっているのは、内部評価に対して、それで妥当性があるのかどうかというようなこと程度しかやっていないんじゃないかという気がするんで、そこから一步踏み込んで内部評価と同じようにBとかAとかいう評価をつけるのがいいのかどうかという感じがちょっと私はあるんですけども。

【第3部会長】

確かに、総合評価で適とつければ、それは内部評価として整合していると思いますという程度の実証にすぎないのに、それを内部評価とともにBですというふうに確言するわけにいかないんじゃないのという意味ですね。確かにそれは不安ですね。

【会長】

文章で書いていることを表にするかだけの違いなんじゃないですか。

【委員】

そこは非常に本質的なところなんですけれども、内部評価書というのは、一応きちっとした手続を踏んで出てきたものだとすれば、これを信じて、この中身を見て適切であるか適切でない

いかということやらざるを得ないというふうに割り切って、それに対して我々は適だとか不適だとかいうふうにしたんですよ。

ですから、あとはその表現の方法として、もし不適であるのを我々としては、不適という評価が正しいということに適にしているけれども、一覧表にするときは誤解を招くから、もとが不適であって、それを適にした場合は自動的に読み直して、不適という形でやらざるを得ないということしかできないんですよ。

話は違いますけれども、よその区を見ていると、外部評価もAとかBとかやっていますから、やらざるを得ないのかなと思いついて見ただけなんですけどね。

【委員】

計画事業70の細街路だと、これは総合評価は適になってしまうので、私は絶対反対です。表にすればBになるでしょう。そうしたら、いいと思われてしまったら、あと何もやらない。

【委員】

もしやるという前提であれば、部会ごとにもう一回やらなきゃ無理でしょう。やるというんだったら、私はやったほうがいいと思いますよ、一番わかりやすいから。ですからやるという前提で、もう一回部会で通して、同じ尺度で協調してやったほうが私はいいと思いますよ。

【委員】

そのつもりで評価していないから、空白のところもあるわけですよ。だから、それはあまりにも無責任じゃないでしょうか。そのつもりだったら、もう少しこの会をたくさんやらないとできないと思います。

【会長】

わかりました。

問題提起ということですから、今回はやめましょうか。

【委員】

A、B、Cというのは非常にわかりやすいんですけども、そう簡単に評価できないものも多いので、読んだ方の見た方が誤解されると困るので、私はA、B、C評価というのはしないほうがいいと思うんです。

【会長】

それなら内部評価だってやるべきじゃないですよ。外部評価をするのにやりやすいかもしれないけど、外部評価は難しいというならば、内部評価だって本来すべきじゃない。我々は内部評価の結果をあくまでもこの報告書と限られた時間の中で判断するので、同じようにやるべきだと今思っているだけですから。

来年の課題とにしましょう。

【委員】

そのかわり、会合をもうちょっと多くしないと無理だと思います。

【会長】

個別目標を部会でやらなかったということもあるし、A、B、C評価もしなかったという課

題は残っているということをどこかに書くということで、今回はやめましょう。

【委員】

A、B、Cって3段階でしょう。適と不適は2段階。3つもあるのは難しいですね。

【会長】

方向を示しているので、議論がありますが、ちょっと過激ですけど、使われなければ意味がない、読んでもらわなければ、ショックを与えなければ意味がないと思っているので。それは来年の話にします。

【委員】

やっぱり、5段階評価がいいと思いますよ。

【会長】

わかりました。では、今のことは今回やらないということにいたします。

その他、もう何についても結構です。私が書かなければいけない指摘事項について、これだけは書いてということがおありになれば、再度一言でも皆さんおっしゃってください。

【第3部会長】

個別に一つ一つ評価するというのは時間もかかるし、どこまでやっても確信が持てないしというので、ちょっとやり方を見直したほうがいいなという感想を持っています。

ただ、今までこうやって積み上げて改善してきたので、がらっと変えるというのは難しいと思うんですけども、ちょっとこのやり方は難しい。例えば私が思ったのは、個別目標をまず念頭に、個別目標を評価していく。そうすると、少しこの計画事業についてヒアリングしないといけない、とかそういうふうになってくるんじゃないかと思います。だから、個別目標に関する評価をするというふうに進めてみるとか、ともかくやり方、ペースも少し見直したほうがいいと思います。

【会長】

わかりました。他にございますか。

【委員】

今年から私たちの提案に基づいてこの評価の仕方が変わって、サービスの負担と担い手とか、いくつかの項目に分けて内部評価をしていただいたんですが、非常に難しい面もあったと思うんです。この評価を見ていると、苦勞して書いていらっしゃるなというのも伝わってきまして、でもそういった苦勞はやっていただくことで、いろんな問題点、今までになかった視点から役所の方も考えてくださったし、私たちにとってもいろんな切り口から新しく評価できるようになったと思います。

その担当者の方への評価というか、頑張ってくださいだったということと、そういった視点で非常にいろんな問題点も明らかになってきた。もちろんまだまだ問題点はあるけれども、その評価の仕方についてもまだ改善すべき点もあるけれども、非常にいい方向におかげさまでいったというところを一言書いていただけるといいかなという気が個人的にはいたしました。

【第2部会長】

ヒアリングのときも随分、昨年とは感じが変わっていた部分もございましたので、担当の方の見方が、委員がおっしゃったように、これをやることによって、見えてきたというのもあるのかなという感じを私も持ちましたね。

【委員】

昨年の外部評価結果を踏まえて、区の取り組みについてというドキュメントがここにあるわけです。

そこで、区のほうが我々の報告書をどういうふうに受けとめられたかというのを見ながら今の議論を最後に取りまとめてみた場合に、私は、やはり我々のほうで個別具体的に考え方を提示しているものについて、区のほうでは総合判断をされた、この取り組みへの視点を加えられたと取れるので、個別目標だけで評価するというのでは、外部評価で区政をサポートしようという点からすると、足りない部分があるんじゃないか、事業ベースで評価をしないといけないんじゃないかと思いました。

【委員】

事務局に質問なんですけれども、この後区長に報告して、今年度の役割は終わりですね。

そうすると、会合としては最後なんですか。

【事務局】

今日取りまとめていただいた部分を最終的に文言等については会長、部会長と調整させていただいて、報告書という形で区長に報告していただきたいと考えております。その後、区長の総合判断が出たところで、この外部評価に対して区長がどう判断したかというご報告をさせていただくとともに、来年以降の外部評価の進め方をどうするか、今日のご議論の中で、回数を増やしたほうが良いという部分もございましたので、来年どうやるかというのも今年度中に打ち合わせていただいて、4月に入ってすぐまた新しい行政評価が始まりますので、それに向けた準備ということもございます。今日が最後ということではございません。

【委員】

わかりました。具体的には、区長に出した後、区長が判断して、私たちにそれを報告してくださるというのはいつごろの予定でしょうか。来年はどうしますというような場を早目にできるといいなというのが私の感想なんです。私自身、今年やってみて、知らない分野について忸怩たる部分もはっきり言ってありまして、来年また同じテーマでやるならば、もっとその事業一つ一つに時間をかけたほうが良いという反省もあるものですから、その意味で来年はどうするのかというあたりを議論する場をとっていただければいいなと思います。

【事務局】

会長と相談させていただきます。

【会長】

それでは、今そういうお話も出ましたので、議論はこれで終了させていただきます。

事務局からお話があったように、事務局と私、それから部会長にもご相談しながら文章を決めたいと思います。確定したものは、区長への報告でいらっしやっていたときにお渡し

するという格好になると思います。申しわけありませんが、ご了承のほどお願いいたします。

それで、もしこの後お気づきの点がありましたら、事務局のほうにご指摘いただければ、我々のほうに連絡が来るということになります。

【事務局】

お手元にお配りした行政監査結果報告の資料について、ご説明させていただきます。

以前、行政監査について、内部評価結果の報告のときにちょっとご案内したかと思うんですけども、その時点では監査の結果が出ておりませんでした。

この行政監査の中でかなり補助金について厳しいことも指摘を受けております。補助金については、一時見直しをして、その後、昨年からの内部評価の中に取り込んできたということもございますが、来年が前回の見直しを完了してから3年たつということで、ちょうど見直しの時期に当たることとなります。何らかの形で外部の方の目を通していただいて、補助金をもう一度、この3年たったところで審査をしなければいけないという状況になっておりますので、具体的なやり方についてはこれから詰めていかないといけないんですけども、場合によっては来年の外部評価の中で補助金について、要るか要らないかを含めた審査をお願いしなければならない可能性もございします。

今日はとりあえず資料を先にお渡ししておきますので、お時間を見て目を通していただければと思っております。よろしく申し上げます。

【委員】

外部評価実施結果を区長に報告した後は、区長の総合的判断ということになっていきますけど、その具体的なステップというのはどういうふうにされるんですか。

【事務局】

この外部評価の結果を踏まえて、先ほどもちょっとご案内した実行計画、計画事業になっているものをローリングと見直し作業をします。外部評価の結果を踏まえて、計画事業の見直しが必要だと判断したものについては、当然見直しをかけて、あわせて来年度の予算にこの外部評価でご指摘いただいた分をどうやって反映させていくかというのを並行作業でやっていて、その両方まとまったものを区長の総合判断として整理します。それを、この外部評価委員会にもご報告をさせていただいて、その内容を検証していただくとともに、議会、あるいは区民に公表していくというような形になっております。

【会長】

よろしいですか。

それでは、ちょっと時間が超過してしまいましたけれども、どうもご協力ありがとうございました。今年度の外部評価委員会は、今日で一つの区切りということでございます。また来年に向けての課題も出始めていますので、早目ということも事務局と相談しながら、今後もよろしくお願いいたします。

以上で、今日のこの会を終了します。どうもありがとうございました。

閉会